

日本語諸方言におけるラ行五段化が生じる条件の通方言的一般化とその理論的解釈

宮岡 大 (みやおか ひろし)

九州大学大学院人文科学府・日本学術振興会特別研究員DC

miyaoka.0164 (at) gmail.com

1. はじめに

日本語文法の用語と本発表で用いる用語

日本語文法		本発表	
五段活用	ラ行五段「取る」	子音	r語幹 /tor-/ 「取る」
	上一段「見る」		i語幹 /mi-/ 「見る」
一段活用	下一段「寝る」	母音	e語幹 /ne-/ 「寝る」
	下二段「捨てる」		eu語幹 /hute- ~ hutu-/ 「捨てる」

「ラ行五段化」とは

日本語諸方言でみられる通時的変化

特定の動詞 **母音語幹** に特定の **接辞** が後続するとき、

語幹が **子音r語幹**（ラ行五段動詞語幹）と同じ形態論的振る舞いをする

表1. 宮崎県椎葉村尾前方言（発表者データ）

		語幹	否定非過去 「～しない」	過去 「～した」
子音語幹	r語幹	togir- 「削る」	togir-a-n	togit-ta
母音語幹	i語幹	mi(r)- 「見る」	mir-a-n	mi-ta
	e/u語幹	hute- 「捨てる」	hute-n	hute-ta

全ての母音語幹で生じるわけではない

		語幹	否定非過去 「～しない」	過去 「～した」
子音語幹	r語幹	togir- 「削る」	togir-a-n	togit-ta
母音語幹	i語幹	mi(r)- 「見る」	mir-a-n	mi-ta
	e/u語幹	hute- 「捨てる」	hute-n	hute-ta

全ての接辞で生じるわけではない

		語幹	否定非過去 「～しない」	過去 「～した」
子音語幹	r語幹	togir- 「削る」	togir-a-n	togit-ta
母音語幹	i語幹	mi(r)- 「見る」	mir-a-n mi-n	mi-ta
	e/u語幹	hute- 「捨てる」	hute-n	hute-ta

階層による通方言的一般化

(1)
動詞語幹

a. 語幹末母音

/i/



/e/

b. 語幹モーラ数

1



2

(2) 接辞

意志



否定非過去



過去

一般化は語形の使用頻度を反映

(1)
動詞語幹

a. 語幹末母音

/i/



/e/

b. 語幹モーラ数

1



2

低

使用頻度

高

(2) 接辞

低

使用頻度

高

意志



否定非過去



過去

発表の構成

1. はじめに
2. ラ行五段化が生じる条件の方言間バリエーション
3. ラ行五段化に関与する動詞語幹・接辞の記述的一般化
4. 記述的一般化の理論的解釈: 語形の使用頻度から
5. おわりに

2. ラ行五段化が生じる条件の 方言間バリエーション

ラ行五段化の地理的分布

(意志形, 否定非過去形, 過去形)

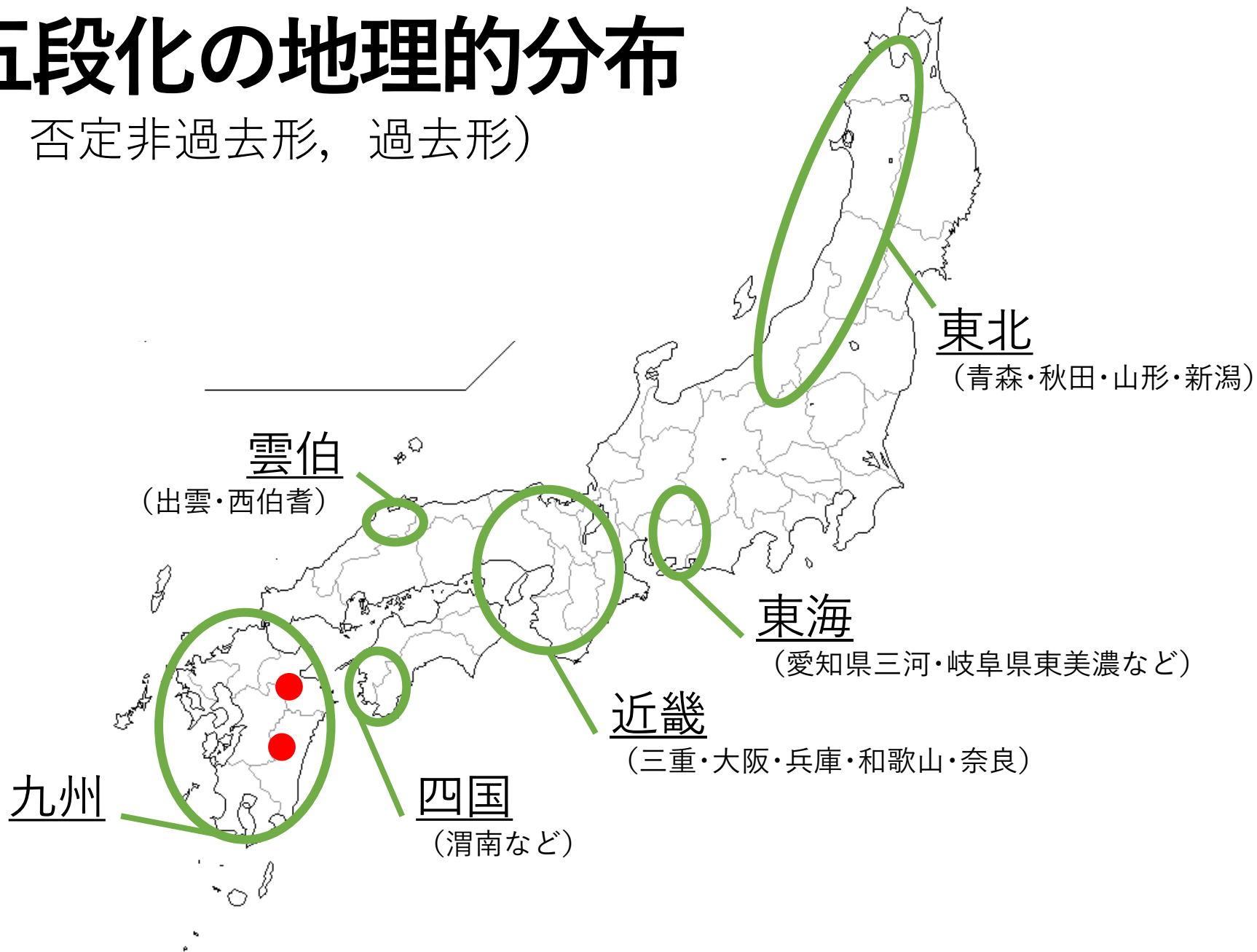


表2/3. ラ行五段化が生じる条件

動詞語幹	/i/		/e/	
	1「見る」	2「起きる」	1「寝る」	2「捨てる」
尾前方言	○	○	○	✕
九重町方言	○	✕	○	✕

接辞	意志 「見よう」	否定非過去 「見ない」	過去 「見た」
尾前方言	○	○	✕
九重町方言	○	○	✕

尾前方言の動詞語形

		語幹	意志	否定非過去	過去
子音語幹	r語幹	togir- 「削る」	togiroo /togir-a-u/	togir-a-n	togit-ta
母音語幹	i語幹	mi(r)- 「見る」	miroo /mir-a-u/	mir-a-n	mi-ta
	i語幹	oki(r)- 「起きる」	okiroo /okir-a-u/	okir-a-n	oki-ta
	e語幹	ne(r)- 「寝る」	neroo /ner-a-u/	ner-a-n	ne-ta
	e/u語幹	hute- 「捨てる」	hutjuu /hute-u/	hute-n	hute-ta

九重町方言の動詞語形（糸井 1964）

		語幹	意志	否定非過去	過去
子音 語幹	r語幹	tor- 「取る」	toroo	toran	totta
母音 語幹	i語幹	mi(r)- 「見る」	miroo	miran	mita
	i/u語幹	oki- 「起きる」	okjuu	okin	okita
	e語幹	ne(r)- 「寝る」	neroo	neran	neta
	e/u語幹	uke- 「受ける」	ukjuu	uken	uketa

3. ラ行五段化に関与する 動詞語幹・接辞の記述的一般化

3.1. 先行研究





小林 (1996, 2004)

『方言文法全国地図』 (GAJ) におけるラ行五段化形式の**出現数**

動詞 語幹	起きる = 見る = 寝る > 開ける > する > 来る
接辞	使役形 > 意志形 = 命令形 > 否定形 > 過去形

九重町方言（糸井 1964）

データを説明することが難しい

動詞 語幹	起きる = 見る = 寝る > 開ける > する > 来る  
接辞	使役形 > 意志形 = 命令形 > 否定形 > 過去形  

3.2. 調査方法

調査語形

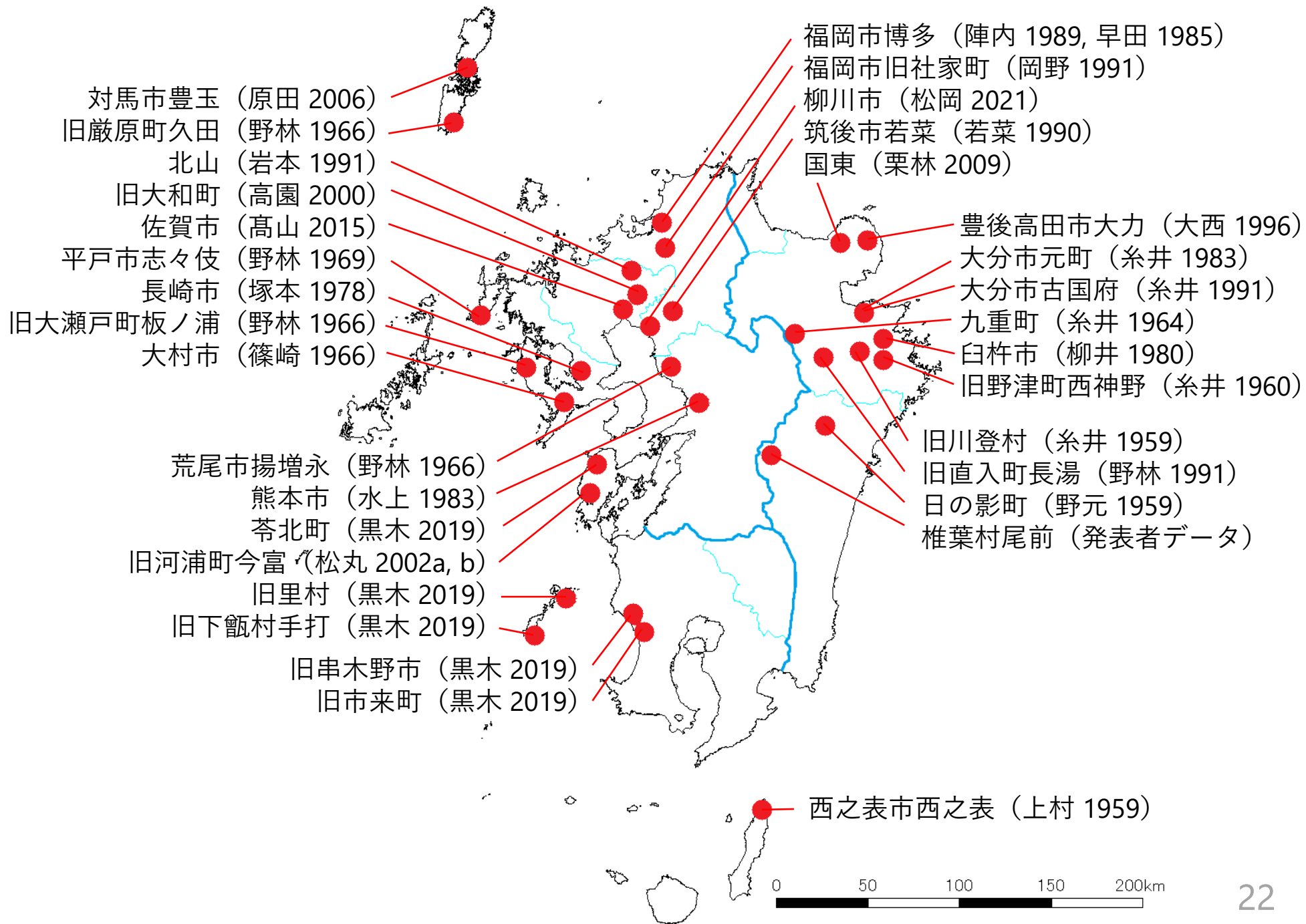
動詞語幹

語幹末母音	モーラ数	例
/i/	1	見る
	2	起きる
/e/	1	寝る
	2	開ける

接辞

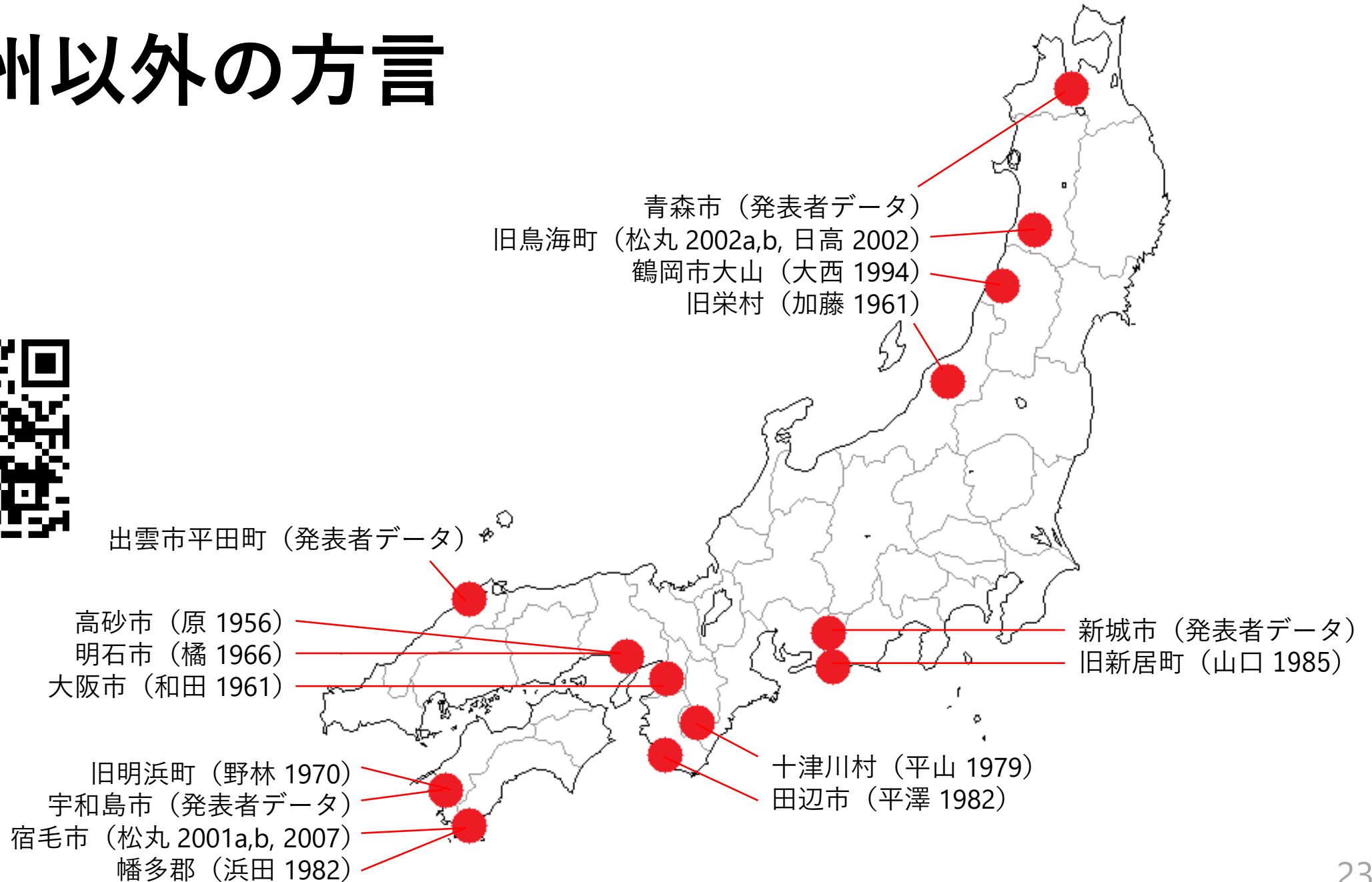
法	時制	極性	例
直説	非過去	肯定	見る
		否定	見ない
意志	過去	肯定	見た
		肯定	見よう
命令		肯定	見ろ

九州方言



0 50 100 150 200km

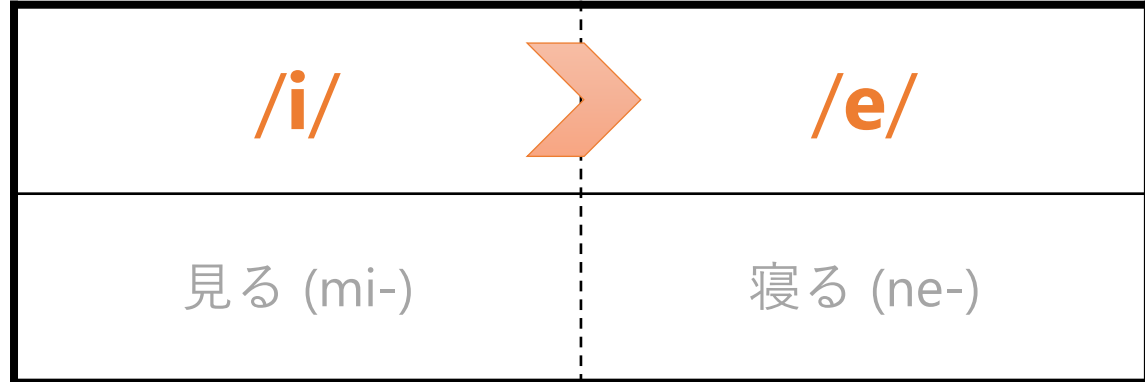
九州以外の方言



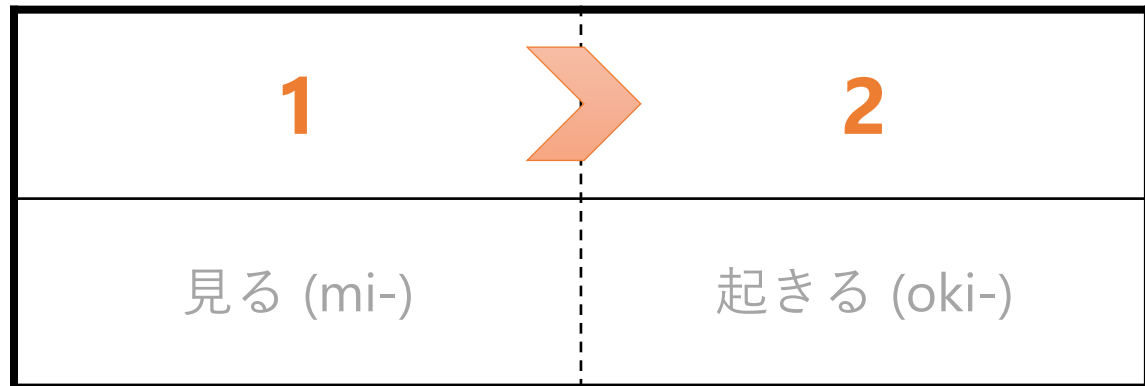
3.3. 動詞語幹の通方言的一般化

(1) 動詞語幹の一般化

a. 語幹末母音





b. 語幹モーラ数



(1a) 語幹末母音の一般化

(特定のモーラ数の語幹)

	/i/	/e/
パターンA		
パターンB		
パターンC		
データに存在しない かつ予測しないパターン		

一般化のパターン(1a) と実例

(特定のモーラ数の語幹)

	/i/	/e/
九重町; 2モーラ	oki-n 「起きない」	uke-n 「起きない」
尾前; 2モーラ	okir-a-n 「起きない」	hute-n 「捨てない」
尾前; 1モーラ	mir-a-n 「見ない」	ner-a-n 「寝ない」
データに存在しない かつ予測しないパターン		


(1b) 語幹モーラ数の一般化

(特定の語幹末母音の語幹)

	1	2
パターンa		
パターンb	R	
パターンc	R	R
データに存在しない かつ予測しないパターン		R

一般化のパターン(3b) と実例

(特定の語幹末母音の語幹)

	1	2
長崎市 (塚本1978) ; 語幹末/e/	de-n 「出ない」	age-n 「上げない」
尾前; 語幹末/e/	ner-a-n 「寝ない」	hute-n 「捨てない」
尾前; 語幹末/i/	mir-a-n 「見ない」	okir-a-n 「起きない」
データに存在しない かつ予測しないパターン		

3.4. 接辞の通方言的一般化

(2) 接辞の一般化

(特定の語幹末母音・
モーラ数の語幹)

	意志	否定非過去	過去
パターンα			
パターンβ	R		
パターンγ	R	R	
パターンδ	R	R	R

一般化のパターン(6) と実例

(特定の語幹末母音・
モーラ数の語幹)

	意志	否定非過去	過去
尾前; 語幹末/e/・2モーラ	hutjuu 「捨てよう」	hute-n 「捨てない」	hute-ta 「捨てた」
愛媛県旧明浜町; 語幹末/e/・2モーラ	uker-oo 「受けよう」	uke-n 「受けない」	uke-ta 「受けた」
奈良県十津川村; 語幹末/i/・1モーラ	mir-oo 「見よう」	mir-a-n 「見ない」	mi-ta 「見た」
宮崎県日の影町; 語幹末/i/・1モーラ	mir-oo 「見よう」	mir-a-n 「見ない」	mit-ta 「見た」

(1a), (1b), (2) の交互作用

高知県宿毛市方言 (松丸 2001)

		意志	否定非過去	過去
/i/	1	○	✕	✕
/i/	2	○	✕	✕
/e/	1	○	✕	✕
/e/	2	○	✕	✕

佐賀県佐賀市方言 (高山 2015)

		意志	否定非過去	過去
/i/	1	○	○	✕
/i/	2	○	○	✕
/e/	1	○	○	✕
/e/	2	✕	✕	✕

4. 記述的一般化の理論的解釈: 語形の使用頻度から

類推変化と語形の使用頻度

類推変化 (analogical change)

使用頻度の低い語形に生じやすく，使用頻度の高い語形は生じにくい

(Hooper 1976, Bybee 1985, 2001, Phillips 2001)

e.g.) 英語・強変化動詞の規則化 (Hooper 1976, Bybee 1985)

	中期英語			現代英語	
	現在形	過去形		過去形	現在形
「知る」	know	knew		know	knew
「刈る」	mow	mew	→	mow	mowed

walk - **walked**

ラ行五段化と語形の使用頻度

ラ行五段化は、母音語幹が子音r語幹へ類推変化

(3) ラ行五段化の一般化(1)(2)は、語形の使用頻度を反映している

	旧体系			新体系	
	非過去形	否定非過去形		非過去形	否定非過去形
「捨てる」	huturu	huten		huturu	huten
「見る」	miru	min	→	miru	miran

togiru - **togiran**

使用頻度の調査方法

国立国語研究所『日本語諸方言コーパス』 (COJADS; Corpus of Japanese Dialects)

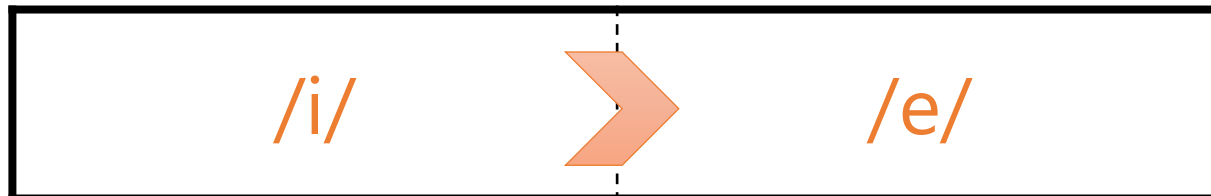
- <https://www2.ninjal.ac.jp/cojads/index.html>
- 文化庁による「各地方言収集緊急調査」（1977～1985年）
- 日本語54方言（ラ行五段化: 九州9, 雲伯2, 近畿6, 東北3）約35時間分
- 以下で示す結果は、2020年11月調査のもの（2021年2月更新 Ver.2021.01は未反映）

表4. 動詞語幹の使用頻度

	1モーラ	2モーラ	
/i/	160	368	528 (1.96%)
/e/	788	2,785	3,573 (13.29%)
	948 (3.53%)	3,153 (11.73%)	26,877

語幹末母音の一般化と使用頻度

	1モーラ	2モーラ	
/i/	160	368	528 (1.96%)
/e/	788	2,785	3,573 (13.29%)
	948 (3.53%)	3,153 (11.73%)	



語幹モーラ数の一般化と使用頻度

	1モーラ	2モーラ	
/i/	160	368	528 (1.96%)
/e/	788	2,785	3,573 (13.29%)
	948 (3.53%)	3,153 (11.73%)	

1モーラ



2モーラ

表5. 接辞の使用頻度

意志形	77 (0.48%)
否定非過去形	1,607 (5.98%)
過去形	3,005 (11.80%)
動詞語形全体	26,877



5. おわりに

本発表では

(1)
動詞語幹

a. 語幹末母音

/i/



/e/

b. 語幹モーラ数

1



2

低

使用頻度

高

低

使用頻度

高

(2) 接辞

意志



否定非過去



過去

今後の課題

通方言的一般化

ラ行五段化は、本発表で一般化の対象とした動詞語幹/接辞以外でも生じる考慮できていない動詞語幹（3モーラ以上）、接辞（連用形に後続する接辞・使役接辞）は？

一般化の理論的解釈

「ラ行五段化」を一般的な言語変化として捉えたい
通方言的一般化は、語形の使用頻度のほかに、どのような点から説明できるか？
（どうしてr語幹になるのか、現象がみられる地理的分布はどういう理由か？）

参照文献

- Bybee, Joan L. (1985) *Morphology: A study of the relation between meaning and form*. Amsterdam: John Benjamins.
- Bybee, Joan L. (2001) *Phonology and language use*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 平山輝男 (1979) 「言語島奈良県十津川方言の性格」『言語研究』76: 29–73.
- Hooper, Joan B. (1976) Word frequency in lexical diffusion and the source of morphophonological change. In: William Christie (ed.) *Current progress in historical linguistics*, 95–105. Amsterdam, North Holland: Elsevier.
- 糸井寛一 (1964) 「九重町方言の動詞の語形表」『大分大学学芸学部研究紀要 人文・社会科学A集』2(4): 28–54.
- 小林隆 (1996) 「動詞活用におけるラ行五段化傾向の地理的分布」『東北大学文学部研究年報』45: 242–266.
- 宮岡大 (2021) 「日本語諸方言におけるラ行五段化の方言間比較と通方言的一般化 —語幹末母音・語幹モーラ数・接辞の観点から—」修士論文, 九州大学大学院人文科学府. [<https://researchmap.jp/miyaokah/misc/31850056>]
- 野林正路 (1970) 「方言研究の新しい地平 —弁証法的な記述様式の確立をめざして—」平山輝男博士還暦記念会 (編) 『方言研究の問題点』319–355. 東京: 明治書院.
- Phillips, Betty S. (2001) Lexical diffusion, lexical frequency, and lexical analysis. In: Joan Bybee and Paul Hopper (eds.) *Frequency and the emergence of linguistic structure*, 123–136. Amsterdam: Benjamins.